
白の檻姫

うな

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

白の檻姫

【Nコード】

N2966Y

【作者名】

うな

【あらすじ】

白い檻の中で、少女は静かな最期を望んでいた。

静かな最期^{おわり}を望んでいた。

ゆつくり、ただゆつくり朽ちていく世界。そこは二色の眼差しで彩られた純白の檻。壁のくぼみには、緩慢に巡る四枚の絵画が笑っている。

ある日には桜が優しい風に舞った。ある日には痛みを耐えるように蝉が鳴いた。ある日には高く澄んだ夜に星が流れた。ある日には差し出した手を雪が濡らした。

「綺麗だね」

一枚の絵画を眺めながらその人は言った。

「そうかな。わかんないや」

わたしはその人の隣に座って絵画を眺める。そこには何の変哲もない、今にも葉が落ちてしまいうような木と寒々とした風景が描かれているだけ。特別なものなど何もない、平凡な景色だ。

「なにがキレイなの？」

わからなくて、その人へ振り返る。

「綺麗なものが綺麗なんだよ」

キレイな笑顔。確かにキレイなものはキレイだと思う。けれど、それじゃ全然答えになってない。

「ちゃんとわたしにも分かるように言っつてよ」

「綺麗なものが綺麗っていうのが分からない？」

「そんな当たり前のことは言われなくてもわかってるっつてば」

「当たり前っつて？」

「キレイなものはキレイ。当たり前だよ。同じものなんだから」

「ふうん……確かに言われてみればそんな気もするね」

「気がするっつて、違う意見だったの？」

「どうかな。キミは富士山って見たことある？」

少し困ったような微笑み。もう一度絵画に目を向ける。

「バカにしてる？」

「まさか。見たことあるなら、キミはあの山を綺麗だと思った？」

「普通にキレイだったよ」

「そう。なら一つ質問だ。キミは富士山を『綺麗なもの』だと思うかい？」

「あ、そっか。キレイに見えてもキレイとは限らないんだ」

納得。確かに富士山は遠くから見るとキレイだけど、近づいてみればただの岩の塊だし観光客の捨てたゴミだらけだ。そんなものはキレイなものじゃない。

その人はわたしの理解を見計らったように立ち上がって、にこりと笑う。

「檻の中にいると本当に綺麗なものが分かるようになるんだよ。例えば、キミとか」

接触。わたしの地面がぎしっと軋む。

「難しいこといっぱい言っておいて、結局はコレなの？」

「世の中、大体はそんなものだよ。みんな理由を欲しがる。理解を欲しがる。本当はどうでもいいのに」

笑う。軋む。身体が、心が熱を求めている。

「まあ、確かに、どうでもいいのかもね」

力を抜く。伸びた手の温度が気持ち悪いほどに気持ち良くて。熱に溶かされた緩慢な意識で絵画の方を眺めみると、真っ黒く塗りつぶされて何も見えなくなっていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2966y/>

白の檻姫

2011年11月12日21時57分発行